



～文教のまち西原～

2001年 No.358

広報

にしはら

12

西原まつり大盛況

第13回西原まつりが、11月3、4日の2日間、西原町陸上競技場で行われました。今回は「世界のニシハランチュの集い」の開催や世界2大会制覇の西高マーチングバンド、りんげんバンドなどの出演に大盛況のうちに幕を閉じました。



いざ行かむ

我等の家は

五大州

世界のニシハランチュたちの足跡

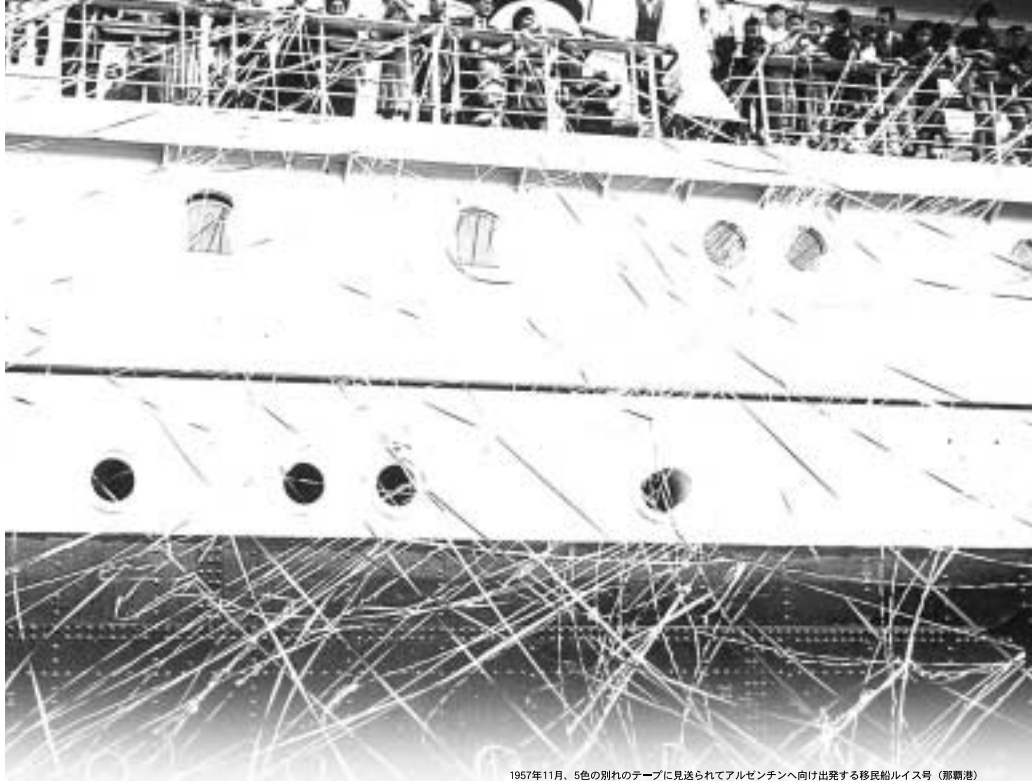
「いざ行かむ 我等の家は 五大州」
これは移民の父とよばれた当山久三氏のこと
です。

沖縄県は海外移住者の多い県だったとして知られていますが、その中でも西原町は戦前の海外移住者数が県内市町村で第三位に入るほどの移民母村の地でした。

故郷に別れをづけ、海を渡った当時のみなさんにはどのような思いがあったのでしょうか。

折しも、十一月には「世界のウチナーンチュ大会」が開催され、西原町でも西原まつりの中で「世界のニシハランチュの集い」を行い、約百人の海外移住者や二世、三世のみなさんが参加しました。

今月は、最近発刊された「西原町史・西原の移民記録」をもとに、海外に雄飛された世界のニシハランチュたちの足跡をご紹介します。



1957年11月、5色の別れのテープに見送られてアルゼンチンへ向け出発する移民船ルイス号（那覇港）

沖縄県民の 海外移住について

日本人の海外移住は、一八六八（明治元）年のハワイ移住で始まりましたが、沖縄からの移住は、一八九九（明治三十二）年十二月五日に移民二十七人がハワイへ出発したことが始まります。

その後、一九〇三（明治三

十六）年には、第二回ハワイ移民四十人が自由民権運動家、当山久三の引率で渡航したことに続いて、同年、アメリカ本土へ初めて五十一人が渡航するなど、北米大陸への移住が本格的に行われました。

ところが、一九二三（大正

十二）年頃から

アメリカ、カナ

ダで排日運動が

激しくなり日本

人の移住が制限

されたため、沖

縄県人の移住は

北米大陸から南

米大陸へ主力が

向けられ、ブラ

ジル、ペルーを

中心に多数の県

民が南米大陸へ

雄飛しました。

戦後の本県の

海外移住は、ア

ルゼンチンへの

呼寄せ移住で始

りました。

一九四八（昭和二十三）

年、戦後最初の移住者三

十三人がアルゼンチンへ

渡航したのを皮切りに、

ブラジル、ボリビアなど

南米方面への移住が活発

に行われるようになりま

した。

特に、一九五二（昭和

二十七年四月、琉球政

府の発足とともに総務局

に移民課が設置され、海

外移住が強力に推進され

たことや、一九五三（昭和二

十八）年からアメリカ合衆国

戦前の海外移住国市町村別・ランキング3 （1935年12月末現在）

	1	2	3
ハワイ	中 城	金 武	西 原
ブラジル	羽 地	西 原	本 部
ペルー	中 城	本 部	西 原
アルゼンチン	中 城	勝 連	大 里



1962年2月 移民船テレルベルグ号で迎えた赤道祭で仮装した移住者の皆さん（写真提供はアルゼンチンの年報編集局さん）

制約などで移住者は減少するようになり、さらに、中南米諸国の経済不況等もあって減少の一途をたどっています。また、国は政府の支援を必要とする中南米諸国への移住者が著しく減少し、先進国指向の個人ベースの移住へと変化してきている状況をふまえ、移住者の送出事業を平成五年度で終了し、現在は移住者の定着・安定のための支援を行っています。

沖縄県ホームページ 文化環境部
文化国務局 国際交流課 資料から



與那嶺半金・ツラ・ウシさんの日本帝國海外旅券

戦後の本県の海外移住は、アルゼンチンへの呼寄せ移住で始まりました。戦後の本県の海外移住は、アルゼンチンへの呼寄せ移住で始まりました。



與屋賢榮さん家族の補助家族及夫婦移民用契約書

西原の海外移住の歴史

ここでは、西原村からの移民者が多かった第二次世界大戦前を中心に西原の移民についてふりかえつてみます。

【県内で西原村出身移住者が多かった理由】

西原村は沖縄本島の南部、旧城下町首里市（現・那覇市）の東北に位置し、琉球王国時代には王府直轄の地でした。そのため、第二次世界大戦前の西原村は純農村とはいえず、首里・那覇の両市街地に近く、中央への交通の便もよく、情報も他町村より早く伝わったと考えられます。県や移住会社による移民募集についても有利な位置にあり、その結果、県内有数の移民母村となったと考えられます。

西原村は海外移住に関する情報伝達などにおいて、県庁所在地の那覇市に近く、地の利を得ていたと言えるでしょう。



移住者は故郷の思い出の写真を胸に海外へ渡った
この写真もそのひとつで1937年の西原町字小那覇の綱引き（写真提供はアルゼンチンの民屋盛光さん）

一三五（昭和十）年現在、いわゆる西原村から出ている海外移民・殖民・日本本土在住者の合計は三、四九〇人であり、西原村の人口の約三十三％を占め、これは沖縄県の全市町村行政区画五十八中、実に第二位となります。この数値は西原村から海外（外国・殖民地・他府県へ出ている、いわゆる出村人口比率）とも称すべきもので、これは沖縄県平均が十五・六三％であるので、その二・一倍にも相当し、当時西原村の人口の三人に一人は海外や県外へ出ていたことを意味します。なかでも海外への移住が圧倒的に多かったので、西原村は早くから沖縄県における典型的な移民母村といわれてきたのです。

一三五（昭和十）年現在、いわゆる西原村から出ている海外移民・殖民・日本本土在住者の合計は三、四九〇人であり、西原村の人口の約三十三％を占め、これは沖縄県の全市町村行政区画五十八中、実に第二位となります。この数値は西原村から海外（外国・殖民地・他府県へ出ている、いわゆる出村人口比率）とも称すべきもので、これは沖縄県平均が十五・六三％であるので、その二・一倍にも相当し、当時西原村の人口の三人に一人は海外や県外へ出ていたことを意味します。なかでも海外への移住が圧倒的に多かったので、西原村は早くから沖縄県における典型的な移民母村といわれてきたのです。

一三五（昭和十）年現在、いわゆる西原村から出ている海外移民・殖民・日本本土在住者の合計は三、四九〇人であり、西原村の人口の約三十三％を占め、これは沖縄県の全市町村行政区画五十八中、実に第二位となります。この数値は西原村から海外（外国・殖民地・他府県へ出ている、いわゆる出村人口比率）とも称すべきもので、これは沖縄県平均が十五・六三％であるので、その二・一倍にも相当し、当時西原村の人口の三人に一人は海外や県外へ出ていたことを意味します。なかでも海外への移住が圧倒的に多かったので、西原村は早くから沖縄県における典型的な移民母村といわれてきたのです。

一三五（昭和十）年現在、いわゆる西原村から出ている海外移民・殖民・日本本土在住者の合計は三、四九〇人であり、西原村の人口の約三十三％を占め、これは沖縄県の全市町村行政区画五十八中、実に第二位となります。この数値は西原村から海外（外国・殖民地・他府県へ出ている、いわゆる出村人口比率）とも称すべきもので、これは沖縄県平均が十五・六三％であるので、その二・一倍にも相当し、当時西原村の人口の三人に一人は海外や県外へ出ていたことを意味します。なかでも海外への移住が圧倒的に多かったので、西原村は早くから沖縄県における典型的な移民母村といわれてきたのです。

西原村における在留国(地域)別海外在留者数（1935年）

在 留 国 (地域)	在 留 数			在留者数計の構成比
	男	女	計	
ブラジル	550 ^人	302 ^人	852 ^人	34.1 [%]
ハ ワ イ	400	434	834	33.3
ベ ル ー	400	243	643	25.7
アルゼンチン	97	—	97	3.9
北米合衆国（アメリカ合衆国本土）	26	10	36	1.4
比律賓群島（フィリピン）	29	—	29	1.2
メキシコ	11	—	11	0.4
総 数	1,513	989	2,502	100.0

〔注〕 資料の出所：沖縄県教育委員会、付表の第14表「外国在住者調査（昭和10年12月末日現在）」『沖縄県史』第7巻 1974年

うな純農村でした。明治四十年代から大正期にかけては役場は、ほぼ中心の翁長に置かれ、重要物産はサツマイモとサトウキビが圧倒的に多く、県糖業試験場と製糖工場が立地していました。

良が含まれていたのが最初です。この沖縄県から初めての移住は、沖縄県の「移民の父」と称される富山久三氏の奮闘努力と、沖縄県の推進奨励により、県内各地から募集し送り出されたのですが、そのなかに西原村出身者が一人含まれていたということになります。当時海外へ移住に出ることはその前例がなく、大変な決意を要したと思われます。

【戦前の移住の状況】

一九〇四（明治三十七）年から一九四一（昭和十六）年

業が全体（四、一六七人）の八十九％をも占め、圧倒的に多いことが知られています。

【海外移住の開始】

西原村における海外移住の歴史を振り返ってみると、その開始は一八九九（明治三十二年）十二月ハワイへ向かった最初の集団移住二十六人のなかに、字呉屋出身の呉屋次



茅ぶきの家の屋根ふき（字橋原、1940年代）

六人で、これは全体（二、五二四人）の四六・二％をも占めます。第二位はベルーの六一人で全体の二四・三％、第三位はブラジルの四七五人で十八・八％を占めています。以下、アルゼンチン、フィリピン、メキシコ、アメリカ合衆国本土、カナダ、シンガポール、大洋島、ニューカレドニアがつづき、全部で十一の国や地域がみられます。



ブエノスアイレスの旧中央市場前列左から3番目の方がカルロス仲宗根さん（写真提供は仲宗根ツサ・カルロスさん）

呉屋、桃原、安室などがつづき、西原町の全字にわたり海外移住がみられました。

【県内地域別にみた西原村の移住の状況】

一九一三（大正二）年発刊の比嘉徳の『中頭郡誌』によると、一九一（明治四十四）

西原町の海外移住数の合計を字別にみると、首位は小波津の五十七人、二位は津花波の三十三人、三位は翁長と小

ここでは「町史・西原の移民記録」から、それぞれの国へ移住された方々の体験記の一部をご紹介します。

ブラジルへの移民

小橋川 與仁・ツルさんの体験記



小橋川與仁さんファミリー。右から一人目が與仁さん。二人目がツルさん。

「一九八八年一月二十七日聞き取り」
サンパウロ南タトゥーベにて
■大正七年八月二十五日
出身／品城
屋号／次男東儀保三男

一九三五年一月二十三日、
アフリカ丸にてサントス港入
港。家族移民だった。家族構
成は與仁、ツル、清（長男）、
呉屋キヨ（ツルの従姉妹）の
四人だった。

沖縄では農業をしていたの
で、農業契約移民として移民
し、二カ年契約でフアゼンダ
（耕地）に来了。

ブラジル行きの船の中では、
北谷出身の稲嶺セイコウさん
が三味線を持っていたので、
寂しいときは、その三味線を
借りて弾いたりした。「フア
ゼンダに行ったら、まあ辛抱
し、団結して一緒に働こうな」



1957年当時のコーヒー園（写真提供はブラジルの与那覇良正さん）



1939年6月撮影の綿花の収穫風景（写真提供は与那覇誠実さん）

十時頃からコーヒーの実
を取るようになっていた。
日曜日になると、私と
知花さんの二人は、袋を
かついで、六如離れた街
まで酒、塩、砂糖などの
品物を買いにしかけた。
朝、家を出ると、遊ぶ所
もないので、知花さんと
二人で公園に行つてベン
チに座り、パンの中にパ
ナナをはさんで、それを
食べながらそれぞれの思
いを語り合つた。

（その後、小橋川さん一
家は熊本県人のコーヒー
園で雇われ、借金を返済
した後、独立農となりま
す）
その頃（昭和十二、三年頃）
ブラジルに初めて綿花作りの
ブームがやってきた。そこで、
熊本県人の土地を借り、独立
農として綿花作りをするよう
になった。また、金があれば
土地を買えたので、独立して
三年目には土地を買うようにな
つていった。独立農業を始め
た頃、小作地は山を開墾した
土地であつた。二カ年は山を
開墾して綿花を植えた。

子供は息子八人に娘二人に
なつた。その後、十五年間農
業を続けた。その頃になると
子ども達も大きくなつたので、
何とかして街に出て、自分が
日本でやっていたような技術
を習得しなくてはならないと
思い、サンパウロに出て来た。
サンパウロでは、子ども達も
メルカド（市場）で働くよう
になった。私もメルカド
で野菜の仲買をしていた。

ブラジルへの移住

ブラジルの国民性は温和で
楽天的であり、人情はこまや
かで、人種の偏見がない。し
かし、国民間の経済的な格差
は大きく、少数の金持階層と
一般庶民でなりたち、中産階
層が少ないといわれる。

現在、ブラジルにおける日
系人は、その数約二〇〇万人
で、ブラジル全人口の１％近
く、人種別構成では、第五位
に位置する。うち沖縄県系人
は約十三万人で、日系人の約
一〇％を占め、出身府県中最
大の勢力を誇っている。ここ
数年、日系二、三世などの日
本への出稼ぎが多く、日系社
会の大きな社会問題となつて
いる。

広大な土地を切り開いて作られた当時のコーヒー園

アルゼンチンへの移民

小波津 正秀さんの体験記



「一九八八年一月一日聞き取り」
フエノスアイレス・アベサネータ市
サンフェエー街
■明治三十八年十月十一日生
出身／小波津
屋号／内原小の長男

叔父・小波津次良（父の弟）
の呼び寄せで、大正八年一月
四日、ハワイ丸でブラジルに
着いた。私は十四才だった。
まだ高等科一年生だったが、
私はアルゼンチンに叔父さん
がいたので、できればアルゼ
ンチンで勉強してもいいと思
った。渡航に必要な運賃や小
遣いは、みな叔父さんが送つ
てくれた。

ところが、叔父は私がアル
ゼンチンに向かつての航海中、
流行性感冒にやられ、亡くな
ってしまった。
その後、叔父もいないので
困つてしまい、最初にことは
から覚えなくてはならないと
思つて、外人宅に家庭奉公を
した。わざわざ子どもがいる
家で家庭奉公をした。掃除や



アルゼンチンで沖縄人として最初に洗濯屋をした小波津正秀さん（1921年）

土出身の方が経営する辻
商会のセールスマンをや
つたが、それも思わしく
なかつたので、そこをや
め、カフェエー店に働くよ
うになつた。



小波津正秀さんが経営していたカフェエー店

その後一時帰国し、沖
縄に一年近く滞在した後、
カフェエー店で稼いだお金
で再渡航した。

再渡航したのは一九三二年
（昭和六年）。アルゼンチン
に戻ろうとすると、母親が独
身のままではだめだから結婚
してから戻りなさい」と言い、
字幸地の屋号吉元の四女・翁
長康子を紹介したので、康子
と結婚した。康子は当時産婆
学校を卒業し、産婆としてゲ
ンジュン病院に勤めていた。
一九三二年三月に、夫婦でア
ルゼンチンに戻つた。康子は
産婆の免許があるので、アル
ゼンチンでも産婆をやってい
たが、子どもが生まれ、子育
てに忙しくなつて産婆はやめ
た。

私は再び、以前勤めていた
カフェエー店で働めた後、独立
し、内地の方と共同でカフェ
エー店「富士」を経営した（四
年間）。しかし、うまくいか

なかつたので、共同経営をや
め、内地人経営のカフェエー店
で働いた（十七年間）。
恩給令ができ、外国人とし
ての恩給受給のためにお金を
納付してきたので、五十四才
から恩給を受けている。子ど
も達が嫁ぐので、食べるもの
には困らない。子どもは男二
人、女二人の四人いたが、長
女は亡くなつてしまった。孫
が八人（男四人、女四人）、
曾孫が四人いる。

アルゼンチンへの移住

現在、アルゼンチンにおけ
る日系人は約五万人といわれ、
うち約七十の三万五千人は
沖縄県系人といわれる。
しかし、日本移民の子弟で
ある二、三世などの日系人は
祖国日本への出稼ぎが盛んで
あり、日系社会の諸行事に参
加する若者が少ないといわれ
る。これまでの日本移民の職
業をみると洗濯業が一番多く、
ついで花卉栽培業、野菜栽培
業などが多かった。日系二、
三世になると、医者・弁護士・
大学教授・公務員・技師など
職業分野での活躍も目立って
いる。

呉屋 春さんの体験記



〔一九八八年十一月十日聞き取り〕
リマ市グイクトリア区マニコカッパ住
■大正生八月三十日生
原身ノ小波津
出身ノ西門の長女
■夫・呉屋次郎（故人）
（改名・呉屋正雄）
出身ノ小波津
原身ノ西門の次男

昭和十四年十一月二十三日、二十三才のとき、夫・次郎の呼び寄せでペルーに着いた。ペルーへの渡航資金は、夫・次郎が送ってくれた。夫・次郎は、次郎の父・賀味の呼び寄せでペルーに渡っていた。

私は親同士が結婚を相談し、写真結婚でペルーに来了。沖縄で入籍を済ませてあった。縁談は親戚の方や親達が進めた。戦前は女性が二十歳を過ぎると、結婚相手を見つけてやろうと、親兄弟、親戚が一生懸命だった。

ペルーに来る前は、沖縄で農業をしていた。その頃には戦争が始まっていた。私がペルーに着いた当初、夫・次郎は雑貨店の店員をし

ていた。ペルーに着いた後、私は、叔父さんの店レストランで働いた。子どもは四人で、次女の秋子だけが終戦直後に生まれ、残りは戦前生まれ。

次郎は一九四二年に独立し、青果店（くだもの屋）を始めた。子どももできたので、他人に使われるよりは自分でやった方がいい、と思い独立した。その時、百円で家を購入した。青果店の後、カフェー店やレストランも経営した。レストランを始めたのは、一九六〇年だった。レストランは家族で経営している。レストランを始めた



戦前、リマ市で雑貨店を営む西原出身者（高手司良信さん提供）

ときは、字小波津出身者達の頼母子を落札して資金にした。ペルーに来了当初の食生活は、主食で白米だったが、臭いがきつい（ニクニクの臭い）うえに力カサしていたので、慣れにくかった。つわりもしていたので、よい臭いに敏感だった。それで、毎日コーヒートパンを食べるようにしていた。当時、沖縄では主食はお芋で、時々白米がある程度だった。

沖縄では私の家は財産もあり、砂糖も結構作っていた生活には困らなかったが、二十才も過ぎた娘は、早く嫁ぎな



1957年にペルーの西原村人会主催で開かれた演芸会の記念写真（城岡ツル子さん提供）

さいと親からせかされ、ペルーに来了。沖縄でも結婚相手を見つけられないわけではなかったが、当時の親は他字へ娘を嫁がすことを嫌がり、同じ字内の青年と結婚する事を望む時代だったので、同じ小波津出身の次郎と結婚することとなり、ペルーに来了。

戦時中、私は排日暴動にもまき込まれず、比較的安全に過ごすことが出来た。また、幸い何もかもサントス（地名）に隠してあったので、戦後助かった。

くだもの屋（青果店）をやっている頃は、午前三時に起床し、くだものジュースや麦茶などを作ったりして準備をし、午前六時頃から開店するようにしていた。朝起きると、午後十一時頃までお店の中で

ペルーへの移住

ペルーの日系人は八万人と称され、うち六五％の五万二〇〇〇人は沖縄県系人である。第二次世界大戦後、ペルーの日系人の職業は多様化し、あらゆる分野にその進出がみられ、なかでも飲食店・雑貨店などの商業、綿花・野菜などの農業、養鶏・養豚などの畜産業、軽工業や貿易業などが顕著である。また、近年二、三世には医師・大学教授・弁護士・会計士・建築技師・公務員などの職業も数多くみられるようになった。しかし、最近ペルー日系人の日本への出稼ぎが急速に増加してきている。

米国・ハワイへの移民

安谷屋 富さんの体験記



安谷屋 富・昌人さんファミリー
富さんは右から2人目【1990年1月寄稿】

しく決まったのだった。ハワイには母の姉姉達の家族が、たくさんおられるので、そんなに外国へ行くという感じはしなかった。

ところが、ハワイへ来て見ると、主人の両親と私の叔父、叔母以外に、身内の者で日本語の話せるものはいなかった。日本語しか話せない私と、英語しか話せない主人と、その弟妹達が一つ屋根に住むことになったのである。

私は二男三女の長女として、私謝に生まれた。高校卒業後、胡屋にある親戚のお店で働いていた。私が二十才になって、お店で二年ほど働いているうちに、ハワイに嫁入する事になった。

そのいきさつはこうだった。ハワイの近い親戚に六男四女の子沢山の方がおられ、その長男の嫁探し、ちようどその時、私の祖母がハワイにいる子供達を訪問していたので、そのおばあさんが「富はどうか」という話をして、慌ただ



安谷屋さんの養豚場

主人の仕事だった。私もその助手席に乗って、約一時間半ほどかかってワイアナまで行くのであった。一世移民当時、一番資金のかからない養豚業は、沖縄県人で殆どしめられている。現在でも三、四世の養豚業者は沖縄県人系の方が多い。私がハワイへ来る前の沖縄は、ないないずくしの生活だったので、ハワイで見えるもの聞くもの、食べるものが何でも珍しかった。当時、すでに洗濯機、テレビ、電話、自家用車が殆どの家庭にあったし、電気かガスストーブが各家庭にあった。一番珍しかったの

は、中学校や高校の女の子達が、化粧をしているのをよく見かけることだった。それに人種の多い事である。沖縄では少々の違いはあれ、誰もが皆同じ顔、姿をしていたのに、ハワイに来て見れば、皮膚の色、髪の毛の色、目の色、全く多種多様である。ある者はギリシャの彫刻を思わせるような素晴らしいがめもの者もいるのである。食物の数も多かった。

ハワイにはムームーという女性着があるが、それをはじめ見たときには、どうして皆だぶだぶのものを着ているのだろうかと不思議でならなかった。ところが、これがとてもゆゆうずうのきくものなのである。上は礼服から下は夜着まで布地型によって、どうにでもなるのである。上体にピッタリしたものから、ゆるやかなものなど色々さまざまである。

いつの時代でもそうだと思うが、外国に移民するということは、勇気のいるものである。まず、言葉、習慣、もの考え方、見方が違う。色々の点で勝手のちがうところがでてくる。不得手な言葉で自

分の意思表示を示さなければならぬ立場に立つということくらい、不都合なものはない。しかし、それを気にしてひっこんでいるわけにはゆかない。全く体あたるりの姿勢でからなければならぬのである。自分で持っているものをしっかりと掴んで、移住先の良いものは、文化、習慣、食生活等、もう何でも取り入れて新しく自分というものをつくり出す。一人間として生きて行くのに、もの怖じしては勝つてのものも負けしてしまうのである。

一九九〇年一月

ハワイへの移住

ハワイの産業は砂糖とパイナップルに代表され、それに観光産業が加わり、軍人・軍属も多く、軍事基地による収入も州の経済を支えていることは、沖縄県に似ている。ハワイ州の総人口は約一〇四万人であり、うち日本人は約二四万人で全体の二三・二％を占める。このうち沖縄県系人は約五万人といわれているので、ハワイの日系人中の約二〇％をも占めている。

宮平 弘一さんの体験記



（一九八九年九月二十五日聞き取り）
 米国・カリフォルニアへ移住
 ■昭和十四年五月十日生
 ■妻・昌子・昭和十年九月七日生

アメリカへ行く機会があったので、よし行ってみようと思った。アメリカには、私の父の弟（叔父）と父の従兄弟がいた。叔父は一九七〇年に死んだ。

昔はハワイといったら銭（ぜ）が（な）る木があると、思われていたが、そうじゃなかった。私はアメリカに来て、一生懸命働いても金は生らなかつた。朝五時から起きて、働かなくてはならなかつた。叔父がコーヒーションップをやっていたので、毎日そこへ行つてコーヒーや食べ物準備をし、それから他の仕事に行つた。それを五年間続けた。しかも、夜はアダルトスクールへ行つて、なんとか英語をマスターしなくてはならない

と勉強した。

金の生る木はアメリカのどこにもなかつた。それは私の夢にすぎなかつた。金の生る木があれば、寝ていてもなんとかなつただろうが。

昔はハワイに行けば、みんな金持ちになって帰つてきた。だから、外国には金の生る木があると思つたんだ。私は私立のウッドウベリーカレッジ（ビジネススクール）に籍を置き、夜だけ学校に行つた。しかし、お金がつかなくなつた。必要なお金を稼ぐためには働かなくてはならないので、ガーディナー（庭師）の方が金になると思ひ、ガーディナーをするようになった。朝の五時に起きて仕事をした。私

はその庭仕事をしながらも英語を勉強した。

沖縄で月給八〇ドルのとき、アメリカに来たが、その当時（一九六八年）のアメリカで叔父の造園助手（ヘルパー）で二〇〇ドルの月給がもらえた。



高層ビルが立ち並ぶ米国・ロサンゼルス

以上に、アメリカに来るとそれ以上にすぐ広いでしょう。一方、沖縄の島は、ほんとにちつぽけでしょう。それで外（他府県や外国）へ出るんだつたら、若い時から出たほうがいいと思つた。

海外に出るにしろ、沖縄で生活するにしろ、とにかく外を見て自分の視野を広げた方がいい。

例えば沖縄で六十年間生活して裕福になり、ある程度事業も成功し家庭もうまくいつてね、よし、これはもう家に

なつたので、世界をあちこち見てまわろうとしても、六十才を過ぎるとだめなんですよ。もう体が思うようにいかないわけですよ、思いもね、若い思いと年取つたものがこつちやなつて何の効果もないんですよ。鉄は熱いうちに鍛えよ、というように、若い時にあつちこつち見たほうがいい。今は生活も結構よくなつて、見たい所は日本ではどこでも見られるわけですよ。私たちの時代はそうじゃなかつた。日本本土を見るのも大変だつた

し、金もないし、生活も大変だけれども、やはり沖縄よりはまだ広いところへ行こうという、そういう夢があつた。私は沖縄にいた小さい頃、海が家から近いので、いつも海へ行つて眺めていた。海で本を読んだり、高校の頃、何かの試験がある時など一人で海へ行つて暗記したりした。その頃から、海を見ながら「この海はどこへつながつているのだらう」と考えたりして、見たことのない世界に思いを馳せる夢があつたんです。

米国・カリフォルニアへの移住
 アメリカ合衆国における日系アメリカ人の人口は約七〇万人であり、その七〇％以上がハワイとカリフォルニアの二州に集中している。アメリカ合衆国の日系人は学界、芸術界のほか、上層中産階級に位置する者、知的職業に従事する者が多くいる。

カリフォルニア州を中心とするアメリカ合衆国本土において、日系人中沖縄県人系がどのぐらいの人口を擁するかは定かでないが、約五万人と推定される。

いつも心の中には 忘れられない故郷、西原が…。

海外移住者のみなさんは、どのような思いで各国へと旅立って行ったのでしょうか。

一つは、沖縄の貧しさからの脱却があつたことでしょう。そこに、国や県の海外移住促進の方針があり、移住者は増加していきました。

しかし、最後にご紹介した宮平弘一さんが話してくれたように、海外へと羽ばたいたウチナンチュたちは「この海に向こうに何があるんだろ

う」という見たことのない世界に思いをはせる夢があつたのではないかと思います。

ウチナンチュたちは、はるか昔からサバニや貿易船に乗り、海外へと旅立って行きました。

まだ、情報化の進んでいない時代にも抱いた、未知のものへの大いなるチャレンジ精神や開拓精神は、現代の私たちも見習わなければならないものかもしれません。

また、移住者は移住先でも常に家族の方々や西原への気持ち忘れず、仕送りや出身区への寄付などで経済的援助を続けてきました。

移住者の心の中には、常にふるさである西原があつたのでしよう。

その思いは二世、三世へと受け継がれています。私たち沖縄に住むウチナンチュも、海外のウチナンチュを通してチャレンジ精神を学び、さらなる国際交流を図りたいものです。



第13回西原まつり「世界のニシハランチュの集い」のフィナーレでカチャーシーを踊る西原出身海外移住者の2世・3世のみなさん

町では海外移住者子弟を応援し 国際交流をすすめます！

町の主な関連事業

【海外移住者子弟研修事業】

町では、一九九〇年度から本町出身海外移住者子弟の研修生（これまで二十四人）を受け入れ、技術等の修得及び町民との交流を通して移住社会の発展に寄与する人材を育成するとともに、西原町民の国際交流思想の高揚並びにこれら移住国と西原町との友好親善に資することを目的として「西原町海外移住者子弟研修生受入事業」を行なっています。

●お問い合わせ

総務課 ☎九四五五〇二一

【海外短期留學生派遣事業】

町教育委員会は、国際化に対応できる人材の育成をめざして、平成十年度から海外短期留學生派遣事業を行つています。平成十三年度の派遣生は八人。（八人中、西原町人つくり支援の会から一人助成）派遣生は、帰国後、生徒会活動など各分野で活躍しています。

●お問い合わせ

教育委員会 学校教育課
 ☎九四五三六五五
 （内線506）



【A・L・TとC・I・Rの活用】

町では国際交流員（C・I・R）による小学生英会話指導、外国青年招致事業語学指導員

左からCJRのコボス・ダヴィラトさん(フランス)、ALTのシャリー・アギユラさん(米国)、ジェフリー・アラン・マックブライドさん(米国)

【日本語教室】

西原町では本町、またはその近隣に在住する外国人を対象に日本語クラスを開講しています。授業料は無料です。

●お問い合わせ

総務課 ☎九四五五〇二一

西原町史・西原の移民記録が発刊されました。

このたび西原町史第六巻（資料編五）西原の移民記録・附録が発刊されました。各国への移民状況や体験記などのほかに貴重な写真、各字の移民状況など西原の移民について、情報が盛りだくさんです。

●お問い合わせ

教育委員会 生涯学習課
 町史係 ☎九四五三六五五
 （内線215）





苦心しながらもラジオづくりを楽しむ西原南小学校6年1組のみなさん

子どもたちは、少し驚きながらも喜んで、六年一組の与那城昂太君は「はんだこてが難しかったけど、おもしろかった」、仲程奈々さんは「スイッチをひねって鳴ったときは、うれしかった」と感想を話してくれました。子どもたちは、それぞれに電波の大切さを感じたようでした。

まちの話題



ウクレレに合わせて「芭蕉布」を合唱するハワイの西原町人会のみなさん

おかえりなさい！ 世界のニシハランチュ

十一月三日、四日に開催された「第三回西原まつり」のなかで、町出身海外移住者やその二世、三世のみなさんなどを招いて「第三回世界のニシハランチュの集い」が行われ、招待者は町民らとともにまつりを楽しみました。

「世界のウチナーンチュ大会」にあわせて開催された同集いには、米国ハワイやブラジル、アルゼンチン、ペルーなどから百人以上が参加しました。

翁長町長は、各国からの代表の方々に感謝状と記念品を手渡し「今後とも町と移民先とのつながりを大切にしていきたい」とあいさつしました。

また、ハワイ西原町人会のみなさんのウクレレに合わせて合唱や平成十三年度海外移住者子弟研修生の琉舞、歌などの余興が披露され、最後は全員の力チャイシーでワイナリーを飾り、またの再開を誓い合いました。



感謝状と記念品を手渡される各国代表のみなさん

電波教室でラジオづくり

西原南小学校

沖縄総合通信事務所（大寺 幸所長）が、十月二十四日、午前西原南小学校六年生を対象に「電波教室」を行いました。

これは、電波環境保護の周知・啓発の一環として、電波を理解し電波環境の保護に関する知識を深めてもらうことを目的に開催されたものです。

電波監視官の山城康貞さんは「電波は携帯電話など身近でたいへん多く利用されています。また、警察や消防の無線や衛星通信にも利用されているため、電波のルールを守らないと非常に迷惑がかかります。この機会に電波のしくみを学んでください」とあいさつしました。

子どもたちは沖縄総合通信事務所職員から電波について説明を受けた後、職員の指導のもとラジオづくりに挑戦しました。



いろんな野菜がならぶ「ふれあい市」



これまでの活動が認められた町普及連絡協議会のみなさん（中央、賞状を手にするのが比屋根和盛会長。左から2人目は翁長町長）

町普及連絡協議会が全国農協中央会長賞受賞

西原町普及連絡協議会（比屋根和盛会長、会員六十八人）が、第六回（平成十三年）度農山漁村高齢者対策優良活動地域表彰で、全国農業協同組合中央会会長賞（優良賞）を受賞しました。

この表彰は農山漁村地域の高齢者対策に優れた実績を持つ団体や生涯現役を目指す、積極的に活動を進めている高齢者等の団体を表彰するものです。

今回、西原町普及連絡協議会は、地域ぐるみのインゲン生産や長寿食伝承料理体験交流会、モロヘイヤそばの考案、年二回のふれあい市、週二回の青空市の開催などが認められたものです。

十月三十一日、西原町役場に翁長町長を訪ね、受賞を報告した比屋根会長は「今回の受賞は昨年の粟国村に続き沖縄県から二番目、会員一同、喜んでいきます」と報告しました。

翁長町長は「おめでとうございませう。生涯現役の意気込みで、生産現場、加工部門含めて農業の火を絶やさないよう、みなさんにはがんばってほしい。高齢化や後継者の育成問題など課題も多いが、農業所得が上げれば失業者や荒廃地も少なくなる。いかにして町民の生活を向上させるか、共に考えたい」と激励しました。

トピックス



二世の新川五郎さんのウクレレに合わせて、ハワイのダンスをおどる新川さんの娘さん



小那覇区の新川愛子さんから琉舞を教わる町宇小那覇出身海外移住者二世、三世のみなさん

父母のふるさとへの歓迎に胸いっぱい

小那覇出身者の海外移住者歓迎会を開催

小那覇区のみなさんが、小那覇出身で海外移住者の二世から四世のみなさんを歓迎する「西原町宇小那覇出身者歓迎パーティー」が、十一月三日、午前、小那覇公民館で行われました。

西原町は県内で海外移住者が多くに多かった市町村の一つですが、その中でも小那覇は、もともと海外移住者が多く出た字です。

歓迎のあいさつで新川勝夫自治会長は「おかえりなさい。今日はいくつまで楽しんでください」と述べ、乾杯のあいさつで新川崔吉さんは「心から歓迎します。ほかからで元気そうな皆さんのお顔を拝見して喜んでいきます。今日は最後まで楽しんでください」と歓迎しました。

ウチナー料理に舌鼓を打ちながら、子ども獅子舞や小那覇エイサーが披露されたあとは、移住者の二世、三世のみなさんが、ウクレレに合わせて「芭蕉布」を合唱、会場から大きな拍手が贈られました。

おれのあいさつの中で二世の新川五郎さんは「父の故郷に帰ってきて、心からの歓迎に感激しています。とても楽しいひと時でした」と感謝の意を述べました。

伝統芸能・文化の華が咲く

第13回西原まつり

「新世紀 願やびら 世界ぬ平和 ニシハランチュ」をテーマに、第13回西原まつりが、11月3、4日の2日間、同まつり実行委員会（委員長・翁長正貞町長）の主催で西原町陸上競技場で開催されました。西原まつりは地域産業の育成や教育文化の振興、町民相互の融和とより一層の町民意識の高揚などを目的に隔年ごとに開催しています。



平成13年度海外移住者子弟
南修生の島舞踊エリカさん
(アルゼンチン)



西原町の家計簿

1年間の収入は、74万8,577円となっています	
給料(税)	22万6,178円
親からの援助・仕送り(国・県補助、交付税など)	37万5,943円
銀行からの借り入れ(町債)	3万2,876円
その他(諸収入、交付金、譲与税など)	11万3,580円
計	74万8,577円
貯金額	16万9,848円
借金額	63万6,030円

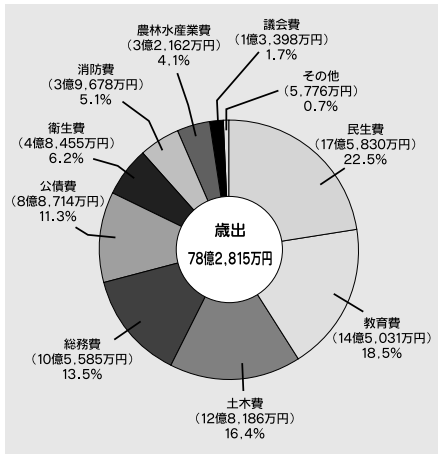
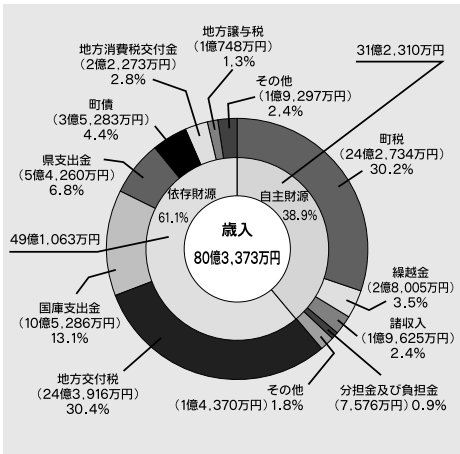
1年間の支出は、72万9,421円となっています	
保育料、医療費(民生費)	16万3,837円
学費(教育費)	13万5,139円
自宅の増改築、庭の整備(土木費)	11万9,443円
ローンの支払(公債費)	8万2,663円
清掃、クリーニング(衛生費)	4万5,150円
その他(総務費、消防費など)	18万3,189円
計	72万9,421円

平成12年度 決算の概要

町では、一般家庭の家計における収入、支出、ローン、貯金にあたる、歳入、歳出、町債、基金などの1年間の決算がまとまりましたので報告します。

● 一般会計の決算額 ●

平成12年度決算規模は、歳入総額 80億3,373万円で、前年度(82億186万円)に比べて1億6,813万円(2.0%)減少しています。また、歳出総額は 78億2,815万円で、前年度(79億2,181万円)に比べて9,366万円(1.2%)の減となっています。



● 特別会計の決算額 ●

町では、5つの特別会計と企業会計があり決算額は次のとおりとなっています。

	国民健康保険事業 特別会計	老人保健事業 特別会計	公共下水道事業 特別会計	土地区画整理事業 特別会計	介護保険 特別会計
歳入	24億1,282万円	15億3,712万円	7億2,361万円	9,455万円	8億8,501万円
歳出	23億5,659万円	15億1,243万円	7億1,682万円	9,205万円	8億6,582万円

水 道 事 業 会 計	
収 益 的 収 入	8億8,861万円
収 益 的 支 出	8億6,486万円
資 本 的 収 入	2,150万円
資 本 的 支 出	9,639万円

平成13年度 西原町財政事情書(上半期)

西原町財政事情書の作成及び公表に関する条例第4条の規定により、公表された「13年度上半期(平成13年9月30日現在)の財政事情書」より抜粋し、掲載しています。
なお、公表された財政事情書は役場企画財政課にて閲覧できます。

各会計の予算執行状況

下記は、9月30日現在の各会計の収入の済んだ額と支払いが決まった額の状況を示したものです。

会 計 名	予 算 額	歳 入		歳 出	
		収 入 済 額	執行率	執 行 額	執行率
一 般 会 計	80億4,115万円	40億3,707万円	50.2	45億7,861万円	56.9
国民健康保険事業特別会計	25億5,001万円	9億1,043万円	35.7	10億6,417万円	41.7
老人保健事業特別会計	16億2,227万円	6億9,631万円	42.9	6億9,881万円	43.1
公共下水道事業特別会計	7億3,196万円	9,136万円	12.5	3億1,743万円	43.4
土地区画整理事業特別会計	1億4,525万円	3,265万円	22.5	3,933万円	27.1
介護保険特別会計	9億9,709万円	3億8,017万円	38.1	4億3,575万円	43.7

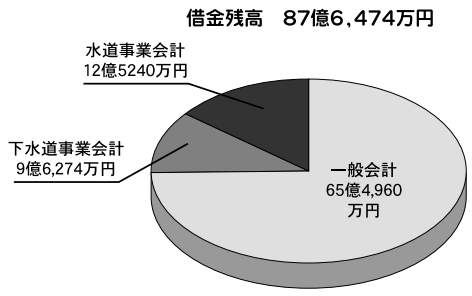
(単位: %)

(単位: %)			
水 道 事 業 会 計	予 算 現 額	執 行 額	執行率
収 益 的 収 入	9億 180万円	4億4,790万円	49.7
収 益 的 支 出	8億9,979万円	3億6,098万円	40.1
資 本 的 収 入	5,720万円	0	0.0
資 本 的 支 出	1億1,502万円	3,043万円	26.5



町債と財産の状況

町では、3会計で借金があり、平成13年9月現在では借金残高が総額87億6,474万円となっています。なお、一般会計と公共下水道事業会計では、借り入れを予定しているので、年度末には若干増加となります。また、財産については右下のとおりとなっています。



土 地	431,069m ²
建 物	57,118m ²
基 金	18億5,376万円
有 価 証 券	18,173株 1,917万円
出資等による権利	944口 1億5,223万円
車 両	35台



長嶺由光さん

農業委員の農林水産大臣表彰伝達式が十月二十三日、午前、県庁で行われ、西原町農業委員会委員の長嶺由光さんが表彰されました。

農業委員は、農業生産力の発展及び農業経営の合理化を図り、農民の地位向上に寄与するもので、長嶺さんは昭和五十三年から町農業委員に八期連続選任され、平成二年からは会長の要職を三期務めています。

この間、同氏は地区別の農地流動化相談会の実施や農地パトロールを行うことにより、農業経営の安定化及び優良農地の確保などに努めてきたことなどが評価され、この度の受賞となりました。

長嶺さんは「地域に支えら

農業委員の長嶺由光さんが

農林水産大臣表彰

れてやってきた。これからも地域とともにがんばっていきたい」と感想を話していました。

榎原・幸地自治会がコミュニティ助成事業活用

幸地自治会が放送設備を整備、榎原自治会が「自然体験活動」を実施

（財）自治総合センターの助成による平成十三年度コミュニティ助成事業が二自治会で行われました。

青少年健全育成助成事業による助成を受けた榎原自治会（伊波時男会長）のみなさんは、七月二十から二十二日にかけて親子の親睦・ふれあいを目的とした「自然とめい



魚釣りを楽しむ榎原自治会の子どもたち

ばい遊ぼう親子宿泊研修」を行いました。

この事業は、区民六十七名が参加し、山原の川や海などの自然体験や地元の人たちと交流することによって、児童生徒の健全育成を図るものです。

当自治会と宿泊先である国頭村楚洲地区とは以前より交流があり、今回も地元の公民館を借りて宿泊研修が行われました。

また、幸地自治会（仲宗根清市会長）では、一般コミュニティ助成事業の助成を受けて放送設備を整備しました。

当自治会は、近年の人口増加によって広域化が進み、既存の放送設備では十分な情報伝達ができませんでした。

仲宗根会長は「長年の懸案であった放送設備が整備され



幸地区に新しく設置された広報用スピーカー

戦没者をしのび、平和を願う

—西原町戦没者追悼式—

十月二十六日午後、字翁長



たことにより、地域内での連絡がスムーズに行えるようになった」と感想を話していました。

（財）自治総合センターは、宝くじの普及広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源に助成事業を行っており、宝くじの収益金は明るく住みよいまちづくりに大いに利用されています。

た「西原の塔」で、平成十三年町戦没者追悼式が、町はもとより県内外から遺族や関係者約百五十人が参列し、しめやかに執り行われました。

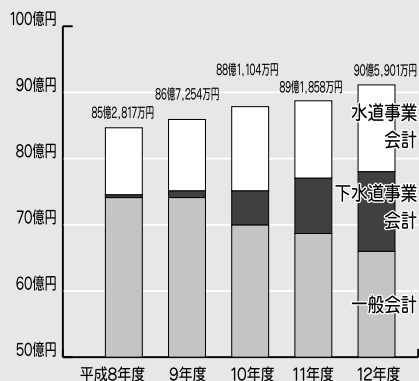
参列者は、一人ひとりが焼香をあげて御霊を慰め、不戦の決意と平和への誓いを新たにしていました。

追悼式では、翁長正貞町長や翁長正昌町遺族会会長、宮平宗輔町議会議長ら関係団体の代表者があいさつし、沖縄戦をはじめとする戦争の教訓を正しく後世に伝え、恒久平和を願うまちづくりをすすめていくことを誓いました。

借金（町債）の状況

借金がある会計は3会計で、一般会計が最も多く、平成12年度末には借金残高68億2,588万円となっています。また、全体を見ると、一般会計では起債発行額（借入額）の抑制に努めていることから、近年は、減少傾向にあります。水道事業会計では、当分の間、借入予定がないため減少する傾向にあります。下水道事業会計では、継続して下水道工事があるため、今後も借入りが続き、借金残高が増加する傾向にあります。

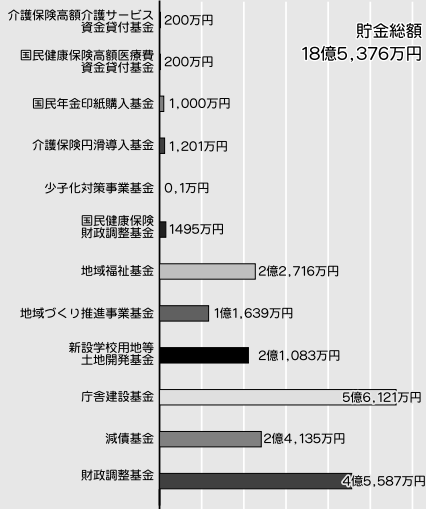
なお、三会計の借金残高を町民1人当たりの借金額に換算すると、およそ**28万1,000円**となります。



貯金（基金）の状況

町の貯金（基金）の総額は、18億5,376万円（平成12年度末）となっています。貯金（基金）の種類と金額は次のとおりです。

また、町民1人当たりの貯金額に換算すると**5万7,580円**となります。



はあいつそこの

町民へのサービスを確認

郵政行政懇談会

郵政事業が、これからも地域の活性化、発展に貢献できるよう取り組むための意見・要望を聞くことが、平成十三年度郵政行政懇談会が、十月二十六日、午前、町役場で行われ、町内郵便局長や町役場四役などが参加し、意見交換が行われました。

まず、名嘉真英明西原郵便局長が「郵便局が今後とも地域のみなさまによりよ



活発な意見交換がなされた郵政行政懇談会

いサービスを提供するため、何なりとご意見、ご要望をお聞きかせください」とあいさつし、翁長町長は「互いに切磋琢磨し、町民へのサービス改善を行っていきたい」と述べました。

懇談会では最初に郵政事業の概要が説明され、その後お互いの意見交換が行われました。

郵便局から町行政側には、地域の特産品をふるさと小包として扱っているが、西原町の特産品もぜひ全国にアピールしたいので、特産品開発を推進してほしい」という要望が出されました。

町行政からは、郵便局員が配達途中に道路などの破損や粗大ゴミなどの不法投棄を発見した際、町に報告し、通報を受けた町が迅速に対応する「わがまち環境情報ネットワーク事業」についてなどおいつそこの協力要請がありました。

12月9日は「障害者の日」です。 ～西原町心身障害者（児）見舞金支給について～

西原町では、町内に住む心身に障害をもつ方に見舞金を支給しています。該当する方には通知しますので、福祉課窓口(社会福祉係)にて申請して下さい。

【対象者】 毎年10月末日において西原町に住所を有している身体障害者手帳(1級・2級)及び療育手帳(A1・A2)を所持している方

【見舞金】 身体障害者手帳(1級)及び療育手帳(A1)所持者 5,000円
身体障害者手帳(2級)及び療育手帳(A2)所持者 4,000円

【受給申請期間】 平成13年12月11日(火)～平成13年12月14日(金) (申請窓口)

●西原町福祉課 (TEL945-5311 担当/奥原・大城)

西原町には身体に障害をもつ方に対してこんなサービスがあります

サ ー ビ ス	内 容
ホームヘルプサービス	重度の身体上の障害のため日常生活を営むのに支障がある身体障害者及びその家族がホームヘルプを必要とする場合、ホームヘルパーを派遣します。
ガイドヘルプサービス	重度の視覚障害または全身性障害等の為、一人での外出が困難で適切な介添人がいない場合、歩行誘導するガイドヘルパーを派遣します。
ショートステイサービス	重度身体障害者を介護している家族が疾病、冠婚葬祭等の理由により、介護ができない場合、本人が一時的に施設に入所して介護を受けられます。
重度身体障害者日常生活用具給付	重度身体障害者に対して、特殊ベッドや盲人用時計、聴覚障害者用通信装置(FAX)等を支給して日常生活の便宜を図ります。
更生医療の給付	一般医療ですでに治癒したと考えられる障害に対し、日常生活を送る上で障害を軽くしたり、回復させる手術を行うなどの特別な医療の給付。
補装具の給付	身体障害者の失われた部位、欠陥のある部分を補うことにより日常生活の能率の向上を図るための用具を給付します。(例:義肢、ストマ用装具、装具等)
重度身体障害者医療費助成	重度身体障害者(児)(障害等級1・2級及びA1・A2該当者)に対し、自己負担した医療費の一部を助成します。
心身障害者福祉タクシー利用料助成	心身身体障害者がタクシーを利用する場合、その初乗運賃を助成するタクシー利用券を、一人年間最高48枚交付します。
緊急通報システム	在宅のひとり暮らしの身体障害者等の急病又は事故等の緊急時に、迅速な救助等ができる緊急通報システムを整備し日常生活上の安全の確保と不安を解消を図ります。
窓口手話通訳員の設置	毎週月・木曜日に手話通訳者を福祉課に設置し、聴覚障害者の役場での手続き等の手助けをします。
福祉機器リサイクル	いらなくなった車イス、介護用ベッド、ポータブルトイレ、シャワーチェア、歩行器等を修理して無料で貸出します。(西原町社会福祉協議会実施)
移動支援サービス	車イス利用者が外出する場合に、リフト付ワゴン車にて自宅から目的地まで移送します。(西原町社会福祉協議会委託)
声の広報・点字広報	視覚障害の為に紙面での情報収集ができない方に「広報にしはら」や「社協だより」などの情報誌を音訳してカセットテープにしたり、点字本にしたりして届けます。
手話通訳員派遣	聴覚障害の為、病院や学校、講演会などで話がききとれない方に、手話通訳や要約筆記のできる奉仕員を派遣します。(西原町社会福祉協議会実施)

※これらの福祉サービスは障害の種類や等級等によって受けられる場合が異なります。

※障害を抱えていて困ったことがある方は、西原町福祉課(TEL098-945-5311)までご連絡下さい。

介護保険係からのお知らせ！

(945-4791 内線155)

介護保険居宅サービスの支給限度額が変わります



平成14年1月から介護保険で受ける居宅サービスの利用方法が変わります。

これまで、通所介護（デイサービス）・通所リハビリ（デイケア）・訪問介護（ホームヘルパー）等の訪問通所系サービス区分とショートステイを受ける短期入所系サービス区分の区分支給限度額は別々に算定されていましたが、平成14年1月からは同じ区分支給限度額で算定されます。

この支給限度額の1本化は、支給限度額内のサービス利用の選択性・利便性を高める事を目的としています。

要支援・各要介護度別支給限度額は以下になります。

区 分	現 行	変更後は	(訪問通所系と短期入所系を 含んだ単位となる)
要支援	61,500円/月 7日/6月	→	61,500円/月
要支援1	165,800円/月 14日/6月	→	165,800円/月
要支援2	194,800円/月 14日/6月	→	194,800円/月
要支援3	267,500円/月 21日/6月	→	267,500円/月
要支援4	306,000円/月 21日/6月	→	306,000円/月
要支援5	358,300円/月 42日/6月	→	358,300円/月

※ 現在、介護保険の在宅サービスを受けている方で訪問・通所系サービスと短期入所系サービスを併用されている方はお早めに担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）と平成14年1月からのサービス利用方法について確認を行って下さい。

痴呆予防講演会のお知らせ

「痴呆とボケについてあれこれ（その1）」
講師／金城博氏（サマリヤ人病院医師）

日時▼12月14日（金）午後7時～8時半
場所▼中央公民館（大ホール）入場無料
西原町役場（福祉課）
TEL945-5311（内線122）

高齢者インフルエンザ 予防接種について

法律の改正によりインフルエンザの予防接種が公費負担（一部個人負担）で出来るようになりました。

【対象者】65歳以上の方

60歳以上65歳未満の方で心臓・腎臓呼吸器の機能に障害を有する方

【実施時期】平成13年11月7日～
平成14年3月31日

【実施場所】委託医療機関
【個人負担】1,000円
（残りは公費負担）

※インフルエンザは空気が乾燥する冬に流行します。

ひとたび流行したと、短期間に小児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込み、特に65歳以上の高齢者や慢性病の患者さんでは死亡率が高くなる傾向にあります。予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつかまるまでは二週間程度かかるため、流行する前の早めの接種をおすすめします。
なお、個別通知は致しませんので、各自体調に十分注意し「老人健康手帳」をご持参のうえ、医療機関に電話予約してから受けて下さい。

●問い合わせ／西原町役場 健康衛生課
945-5013
(内線1601・631・664・165)

図書館建設だより

図書館のある暮らしって...

私たちは、生活や仕事の上で知りたいたいことや困ったことがあるときどうするか。知人に尋ねたり、新聞や本、雑誌などで調べたり、最近ではインターネットで調べるといいう方も多いかもしれません。しかし、それで調べられないときはどうするのでしょうか？

身近にある資料は限られていて必要な情報を得るのには大変なことです。また、いろいろな資料を手に入れようとすれば費用もかかります。こんなとき、図書館があるとき、とても役に立ちます。図書館では、豊富な資料や情報に自由に接することができ、様々な角度から問題点を検討することができ、また、調べ物についてくれますし、図書館のネットワークを通じて、県立図書館や国立国会図書館の資料も取り寄せることができます。また、それだけではなく、図書館は、買

物のついでに立ち寄っても本を借りたり、子どもに読み聞かせをしたり、新聞や雑誌を読んだり、余暇を過ごしたり、とさまざまな目的で利用することもできます。このように、図書館は私たちの日常生活のために欠かすことができない施設です。また、誰でも気軽に利用するために、図書館は生活に身近なところにあつたほうが便利です。

■図書館は知識・情報の宝庫です
■図書館は世界に広がるチャネルです
■図書館は人と人の出会いの場です
■図書館は仲間の輪を広げます
■図書館づくりは人づくりです

西原町の図書館はこのような理念を持つて作られています。

(暮らしにもっと図書館を)
日本図書館協会 編集
一九九八年参照

玉那覇相談員のワンポイントアドバイス



玉那覇親良さん

今回は悪質商法として問題になることの多い手口を紹介します。

- 1 訪問販売 (かたり商法)
役所、消防署などからの訪問であるかのように見せかけ、あたかも設置や表示が義務づけられているかのように売り込みます。商品は消火器・表札・ガス警報機など。ターゲットは一人住まいの老人など。
- 2 アポイント・セールス (呼び出し販売)
電話やハガキを使い、名指しでファーストフード店等へ誘い出し、高額な商品を販売。商品はビデオ教材・着物など。ターゲットは20歳になったばかりの若者など。
- 3 キャッチ・セールス
路上で「アンケートをお願いします」などと呼び止め事務所へ連れ込み売り込みます。商品は絵画、貴金属など。ターゲットは若者が多い。
- 4 ネガティブ・オプション (押し付け商法)
注文もしていないのに一方的に品物を送り代金を請求する。
- 5 開運商法 (霊感商法)
「先祖のたたりで不幸になる」などと不安がらせ、高額な商品販売。商品は印鑑、つばなど。
- 6 催眠商法 (ハイハイ学校)
新商品の説明会といって人を集め、日用品を無料で配布し、一種の催眠状態にさせ、高額な商品を買わせる。商品は健康マット、磁気治療器など。ターゲットは老人が多い。

このような販売方法で購入した場合、8日以内であればクーリング・オフ (無条件解約) ができます。4の場合は14日間の保管義務の後、自由に処分できます。詳しくは相談窓口まで、お電話ください。

※相談日程はお知らせコーナー (25頁) の町内相談機関の日程を参照ください

アイディア箱から

※町では、町役場ロビー、町中央公民館、町民体育館にアイディア箱を設置し、みなさんのご意見・ご要望をお待ちしています。

●ごみの有料化の理由に関するご意見がいくつかでていることに関してご回答いたします。

健康衛生課の回答

8月1日からのごみ収集の変更は、西原町一般廃棄物処理基本計画に基づくもので、町は今年の三月定例議会で、「西原町廃棄物の処理及び清掃に関する条例」を提出し、審議、可決された結果、実施した制度です。

ごみの有料化の目的は、ごみの減量化や排出者に対する意識高揚を図ること、ごみ処理費用の公平な負担等が主なものです。

指定袋が高いのも袋の価格に処理費の一部が加算されているからです。この処理費は、町の収入として入り、ごみの減量化事業の財源として町民のみなさんに還元されるようになっていきます。

効果についてですが、同じような方法でごみの有料化を実施している近隣の市町村をみると、ごみの減量及びごみに対する意識の高揚に効果が上がっています。

●中央公民館の卓球のラケットの破損がひどい。買い換えてほしい。ラバーも替えてほしい。

生涯学習課の回答

ラケットは予算の範囲で損傷の激しいものから順次、修繕、買い換えています。買い換えて3日で使用不可能になる乱暴な扱いの場合もあり、大切に使用していただくよう呼びかけたいと思います。

貴重なご意見ありがとうございました。

高尿酸血症について

健康診断や人間ドックなどでの血液検査の中に「尿酸」という項目があります。

尿酸はからだの新陳代謝の過程でできる老廃物(カス)です。ふつうは便や尿から排出されるので、血液中の尿酸の量は一定にたもたれています。ところが、この排出のシステムがうまくいかなかったり、過剰につくられたりして血液中の尿酸の量が多くなると、痛風などの原因となります。高尿酸血症とは7mg/dl以上で、この状態がさらに進んで急性関節炎発作が起きたときに「痛風」といいます。

高尿酸血症をもつことによって問題になるのは長期にわたる合併症です。尿中の濃度が上がると尿路結石、尿酸が腎臓に付着すると腎不全、また動脈硬化、脳血管障害、虚血性心疾患などがあります。

また、血液中の尿酸が多くなると、尿酸はガラスのような結晶となって関節にたまり、痛風の発作を引き起こします。痛風はとくに足の親指に起きることが多く、猛烈な痛みを伴います。

西原町では、平成13年度の住民健診の結果、受診者の中の約37%が「高尿酸血症」と指摘されました。3人に1人は高尿酸血症と指摘されたこととなります。

血清尿酸値が7mg/dl以上の「高尿酸血症」と指摘されたら、痛風やその他の合併症予防のためにも生活習慣の改善を行いましょう。また、年末・年始の時期には、おいしいものを食べ過ぎたり、飲酒する機会が増えるので特に気をつけましょう。

健康衛生課/945-5013

●こんな人が危ない●

肉やレバーが大好き
太っている
ストレス・イライラ
お酒を大量に飲む
急に激しい運動をする

●こんなことを心がけましょう●

バランスのよい食生活を
減食で太りすぎの解消を
気持ちをゆったりと
節酒に挑戦！とくにビールに注意
ふだんから軽い運動を

月 日	事業名	対象者	場 所	受付時間
12/3 (月)	ツベルクリン反応	3ヶ月～47ヶ月児	中央公民館	9:30～10:30
4 (火)	リハビリ	脳卒中後遺症者等	中央公民館	13:30～14:00
5 (水)	B C G	3ヶ月～47ヶ月児	中央公民館	9:30～10:30
6 (木)	二歳児歯科健診	H11.6.7～H11.9.6	町民体育館	13:30～14:15
7 (金)	クリスマス望年会	心の病回復者	健康衛生課集合	10:30～11:00
11 (火)	リハビリ	脳卒中後遺症者等	中央公民館	13:30～14:00
13 (木)	三歳児健診	H10.8.13～H10.9.2	町民体育館	13:30～14:15
14 (金)	はつらつ健康教室	健康増進に関心のある者	町民体育館	13:00～13:30
18 (火)	リハビリ	脳卒中後遺症者等	中央公民館	13:30～14:00
20 (木)	一歳半健診	H12.5.23～H12.6.20	町民体育館	13:30～14:15
1/8 (火)	リハビリ	脳卒中後遺症者等	中央公民館	13:30～14:00
9 (水)	ベビースクール1	H13.8.8～H13.10.9	中央公民館	13:30
10 (木)	三歳児健診	H10.9.3～H10.9.30	町民体育館	13:30～14:15
11 (金)	はつらつ健康教室	健康増進に関心のある者	町民体育館	13:00～13:30

西原町東崎工業団地 分譲受付開始

工業用地（準工業地域）
坪平均115,000円
【申込期間】
11月21日から12月7日
（午前9時から午後4時
土・日・祝祭日を除きます）
【分譲する面積】
おおむね3,000㎡
（総面積60,000㎡）
【申込資格】
製造業もしくはそれに類する
業種を営む者
【分譲価格】
坪当たり平均115,000円
（1㎡当たり平均34,788円）
【分譲方法】
一般公募
【お申込・問合せ】
西原町村土地開発公社西原支社
西原町字嘉手苅一丁目一番地
西原町都市計画課
☎945・4496

西原町農業委員会 委員選挙人名簿の記載 申請について

【申請期限】
平成14年1月10日
【申請場所】
西原町農業委員会事務局
（申請できる人）
平成14年1月1日現在、町

嘱託保健婦の募集に ついて

本町では、下記のとおり嘱託
保健婦を募集しています。
ご希望の方は申し込みをしてく
ださい。

【対象者】 保健婦（士）免許所持者
【採用期間】 平成13年12月1日～平成14年
3月31日
【連絡先】 西原町役場 健康衛生課
☎945・5013
製造事業所の皆様へ
統計調査に御協力ください

経済産業省では、工業統計調
査及び石油等消費構造統計調査
を平成13年12月31日現在で実施
します。

工業統計調査は、製造業を営
む事業所を対象として、その活
動実態を明らかにすることを目
的として調査します。また、石
油等消費構造統計調査は、従
業30人以上の製造事業所を対
象として、石油等の消費実態を
明らかにすることを目的として
います。

本年12月下旬から調査員が製
造事業所を訪問し、調査票を配
布・回収しますので協力くだ
さい。
なお、調査票に記入していた
だいた内容については、統計法
に基づき秘密が厳守されます
ので、数字等の正確な御記入を
お願いします。

【お問い合わせ】
西原町役場 企画財政課
（統計係）
☎945・4533

12月1日は『世界エ イスデー』

現在 エイスに対する関心が薄
れつつありますが、依然として世
界中でエイスが拡がっています。
2000年末までの世界のエイズ
患者・感染者の数は3,610万
人となっており、日本でも現在約
八千人近くとなっています。ま
た、去年一年間に日本で新たに感
染病した人が789人となってい
ます。過去最高の伸び率となっ
ています。自らは大丈夫、関係ない
と思わずに、もっと身近な問題と
してとらえ、エイズに対する正し

以降・土曜日・日曜日も開いて
います。
【ご利用いただける日時】
○月曜日・金曜日
午後2時～午後8時
○土曜日
午後1時～午後6時
【お問い合わせ】
那覇市久茂地1-3-1
久茂地セントラルビル3階
☎0120・610・399

法務省と全国人権擁護委員連
合会では、「人権デー」を最終日
とする一週間（12月4日から10
日まで）を「人権週間」として
定め、世界人権宣言の意義を訴
え、ともに人権尊重思想の普
及高揚に務めています。

人権週間（第53回）

法務省と全国人権擁護委員連
合会では、「人権デー」を最終日
とする一週間（12月4日から10
日まで）を「人権週間」として
定め、世界人権宣言の意義を訴
え、ともに人権尊重思想の普
及高揚に務めています。

法務総合相談所・女子ども
の権利相談所・外国人のための
人権相談所開設
※お気軽にご相談下さい。

平成13年度 西原町日本語教室参加者募集

西原町では西原町、またはその近隣に在住する外国人を対象に日本語クラスを開
講しています。授業料は無料です。
●土曜クラス（やさしいクラス）
2001年7月21日～2002年3月30日 毎週土曜日/14時～16時
【場 所】西原町中央公民館
【内 容】毎日の生活に必要な日本語を勉強します。
【申込み・問い合わせ】
西原町役場総務課（比嘉） ☎903・0220 西原町字嘉手苅112
☎945・5011 ☎946・6086

Japanese Classes in Nishihara Town

Nishihara Town office will offer Japanese classes. Anyone who
lives in Nishihara town or any neighboring towns or cities can apply
for this program. **Tuition will be free of charge.** The schedule of
Japanese classes as is follows.
●Saturday Class
【Duration】 July 21, 2001 – March 30, 2002
【Time】 14:00 ~ 16:00
【Place】 Nishihara cho kominkan (Nishihara Community Center)
【Content】 Beginner's Japanese
【Address】 Nishihara General Affairs Section
112 Kadekaru Nishihara cho, 903-0220
TEL:945-5011 FAX:946-6086
Ms.HIGA

おきなわド真ん中・ DO・遊・農 第3回なかがみ農産 物フェア

【日時】
12月8日（土）～9日（日）
午前10時～午後5時
【場所】
先の大戦で死亡した軍人、軍

知識や予防法を学んでいきましょ
う。

※相談は無料です、秘密は固く守
られます。
【とき】
平成13年12月6日（木）
午前10時半から午後3時半まで
【受付締切】
午後3時
【ところ】
那覇市久茂地1-1-1
見栄橋郵便局キヤラリ
（見栄橋郵便局2階）
【主催】
那覇地方事務局他
那覇地方法務局
【問合せ先】
人権擁護課
☎854・1215

町民憲章

わたしたちは、西原町民としての自覚と誇りをもち、「人間性豊かな
文教のまち」をめざし、恵まれた地理的条件を生かし、明るく住みよい
平和なまちをつくるため、この憲章を定めます。

- わたしたちは、緑を豊かにし、美しいまちをつくりましょう。
- わたしたちは、つねに学び、文化の高いまちをつくりましょう。
- わたしたちは、だれにも親切にし、互いに助け合いましょ。
- わたしたちは、勤労感謝の心を養い、物を大切にしましょ。
- わたしたちは、スポーツに親しみ、健康の増進につとめましょ。
- わたしたちは、時間を守り、すずんであいさつをしましょ。

基本目標

- 人間性豊かな創造のまち
- 明るく住みよい平和なまち
- 豊かで活力のあるまち

3大ビジョン

- ぬくもりのあるまち構想
- 生涯学習のまち構想
- 豊かな自然を生かしたまち構想

町内相談機関

●日常生活の
あらゆる相談 **総合相談**
時間/午前10時～午後5時（お昼休み12時から13時）
月/消費者生活・ササ金・法律相談 玉川副長江
火/一般相談（福祉・高齢者・障害者・介護）小川順子
水/一般相談（ ） 呉藤定子
木/消費者生活・ササ金・法律相談 玉川副長江
金/こども悩み・家庭問題相談 橋本ユウ子
問合せ/西原町社会福祉センター内総合相談所 ☎835・8822

教育相談

●不登校生徒及び保
護者への支援、助言 **教育相談**
月～金 午前8時30分～午後5時
（午後0時～午後10時は昼休み）
町役場水通庁舎2階
問合せ/945・3655（内線510）
相談員/阿嘉安弘、山城直、大城洋子

行政相談

●行政に対しての
苦情や要望 **行政相談**
随時 設置場所/自宅・毎月第4火曜日は
西原町役場企画財政課（10時～12時・13
時から～16時） 相談員/945・6775（城
間恒子） 945・4533（西原町企画財政課）

窓口相談

●何でも
相談 **窓口相談**
第1・第3火曜日（祝祭日の場合、翌日）
午前10時～午後5時 企画財政課
（午後6時～1時昼休み） 問合せ/
945・4533 相談員/玉那朝良江

人権相談

●人権に関
する悩み **人権相談**
随時 相談員/945・2774（新垣佳
宏） 945・0819（外間政弘）
945・1349（下地都子）
●申請手続き、有
料道路料金の割引 **身体障害者相談**
随時 町役場福祉課 問合せ/945・
5311 相談員/946・2617（奥原陽子）
相談員/945・9169（糸数の子子）

知的障害者相談

●家庭における
養育、生活等 **知的障害者相談**
随時 相談員/945・4411（安谷屋千恵子）

在宅介護支援センター

●在宅介
護の相談 **在宅介護支援センター**
24時間体制 特別養護老人ホーム守
礼の里 問合せ/945・0023 看護
婦（比嘉瑞美子）

精神障害相談

●精神的
な悩み **精神障害相談**
月～金午前9時～午後5時 城間医院
問合せ/945・4551 医師/城間政州

町のあらし

- 町の位置 …… 北緯26°13'19" 東経127°46'3"
- 町の面積 …… 15.57km²
- 町の木 …… ガジュマル
- 町の花 …… ブーゲンビリア
- 町花 …… サワフジ
- 町のホームページアドレス
http://www.town.nishihara.okinawa.jp/

町の世帯・人口（平成13年10月末現在）	
	前月比
世帯数	11,265世帯（+16）
人口	32,705人（+12）
男	16,589人（-5）
女	16,116人（+17）

生涯学習だより

第68号 平成13年12月1日


西原町教育委員会
生涯学習課
TEL 098-945-3655




学級・講座案内

学級・講座名	内 容	対 象	期 間	時間・場所	定員	申込期間	備 考	連絡先
琉球鑑賞会	文化協会の卓越した琉球舞踊や演奏に解説を交えながら鑑賞する	児童・一般	12月5日(水) (坂田小) 12月12日(水) (西原中)	14:15~ 15:15		特になし	各学校の体育・生涯学習課に直接いらして下さい	945-3655
東部消防本部主催事業 ●普通救命講習会		高校生以上	12月8日(土)	9:00~ 12:00	40	要申込	東部消防本部警防課	946-9999
県立教育センター「体験教室」 ●たのしい自然教室③ ●たのしい自然教室④		親子(小中) 親子(小中)	1月26日(土) 2月23日(土)	9:00 9:00	10組 10組	1月7日締切	県立教育センター	933-7513
県立博物館主催事業 ●文化講座「かざりとかたかた関連講演会」 ●文化講座「琉球庭園の歴史」		一般 一般	12月1日(土) 1月19日(土)	14:00 14:00	特になし 特になし		県立博物館	884-2243
石川少年自然の家主催事業 ●星と語る親と子のつどい「星空を見よう」 ●自然・ふれあう親子のつどい「冬の自然探検」		親子 親子	12月8日(土) 1月26~27日(土・日)	19:00	80 50	先着順 先着順	石川少年自然の家	964-3263
玉城少年自然の家主催事業 ●秋のファミリーキャンプ ●スターウォッチング7		親子 親子	1月12~13日(土・日) 1月25日(金)	19:00	50 100	先着順 先着順	玉城少年自然の家	948-1513
国立沖縄青年の家主催事業 ●野外教育指導者等フォーラム		成人	12月14日~16日	(2泊3日)	30	先着順	国立沖縄青年の家	987-2306
(財)沖縄県公園・施設振興協会主催事業 ●バドミントン教室 ●マラソン教室 ●青少年スキー		成人 成人 成人	1月11日~2月15日 1月10日~2月11日 12月26日~30日	19:00 19:00 (4泊5日)	30 50 50	12月16日~23日 12月16日~23日 12月1日~8日	県スポーツ振興協会	932-5114


※プログラムの詳細については、各連絡先にお問い合わせ下さい。






練習の成果を披露

11月10・11日に県立武道館において沖縄県生涯学習フェスティバルが開催されました。西原町から展示とステージの両部門に参加し、ステージの部では中央公民館の「子どもさんしん講座」の受講生が出演し、「安里屋ゆんた」のほか3曲を演奏しました。





新春書き初め大会

文化協会書道部の指導により書き初め大会を開催します。

- 日 時: 2002年1月6日(日)9:00~16:00
- 場 所: 町民体育館
- 対 象: 小・中・高校生並びに成人
- 課 題: 自由(学校の宿題でも可)
- 申 込: 各書道教室若しくは当日でも可

その他: 表彰等あり。詳しくは生涯学習課まで

2002年おきなわマラソンランナー募集!

景勝の中部路を駆けめぐめるおきなわマラソンの出場者を募集しております。

2月17日(日)県総合運動公園発着

2002年おきなわマラソンスタッフ募集!

おきなわマラソンの運営に参加してみませんか?「きつと出会える人・夢・愛」実行委員会西原支部では、ボランティアスタッフを募集しております。気軽にお問い合わせ下さい!

連絡先: おきなわマラソン実行委員会西原支部
生涯学習課内 TEL 945-3655



町の花・ブーゲンビリア



町の木・ガジマル



町花木・サワフジ

WANTED!



オキナワトカゲ

写真提供/小原 祐二

●西原町史編集室
担当/山里

「情報求む!」
今回は、町民のみなさんからの情報をいただきましたと思っています。
何の情報かといえますと、写真にあるオキナワトカゲの居場所なのです。現在、町史では、西原の自然発刊に向けて、動物調査を実施しており、聞き取りでは、オキナワトカゲは人家近くでも見かけるといふことです。
オキナワトカゲは、沖縄諸島の海岸林や農耕地周辺の低地などに生息し、6月ごろ土の中に卵を産み、メスは卵がふ化するまで、穴の中に残って保護するのだそうです。
そこで町史でも、実際にオキナワトカゲの姿を確認し、写真におさめたいと思っています。
このトカゲの特徴は、幼体のうちは背中中に白線があり、尾はきれいな青色をしています。成長すると、白線も消え、体は茶一色となります。そのうろこには「光沢」があり、方言では「アンダキューボージャー」などといっているようです。方言は世代によっても違いがあるのかもしれません。みなさんの知っているほかの呼び方や、どのように関わったか(捕まえてどのように遊んだのか)も、あわせて教えてください。ただければ幸いです。また、他の動物や植物に関するお話でも構いません、ぜひ町史編集室へ一報をお寄せください!

【連絡先】☎098-945-5355

E-mail: choushi@town.nishihara.okinawa.jp

渡口彦八郎氏邸が都市緑化コンクールで入賞

平成13年度の都市緑化コンクール(沖縄都市緑化実行委員会他共催)で、字棚原の渡口彦八郎氏邸の擁壁の緑化が、沖縄県造園建設業協会長賞(優秀賞)に入賞しました。渡口氏邸には、主な樹種としてオキナワハイネズ、アデク、クロキなどで、高いコンクリート壁や鉄格子が景観を損なっていたので、地面を覆うオキナワハイネズを壁の上下に植栽したため、緑化がスムーズにいったのではないかと思います。

渡口さんは「まだまだ、完成しているとは思っていないので、これからさらに手入れをしてよくしていきたい」と話していました。



緑の美しい渡口彦八郎さんの邸の擁壁

ゴーヤーの白和え

生活研究会のまーさいびーんどお

作り方

- ①/ゴーヤーはたて2つに切り中の種とわたをとりうす切りにし、塩をふっておく
 - ②/玉ねぎはうす切りにし水につけてしんなりさせておく
 - ③/鳥ササミはだし汁に塩少々入れてその中で煮て2cmの長さにさいておく
 - ④/①のゴーヤーを水洗いしてよくしぼって②の玉ねぎもしぼってササミと一緒にまぜる
 - ⑤/和え衣を作り④を和える
- ※ゴーヤーはうすく切ったほうがおいしい。

材料と分量(6人分)

ゴーヤー…180g
鳥ササミ…100g
玉ねぎ…100g
とうふ…180g
白みそ…30g
ピーナッツバター…12g
シヨーユ…少々
さとう…少々

衣

